

plan of the architecture

建築のなかみ



本／音楽／ネット／こいびと／ともだち

いざ出かけようとなって、人ごみが嫌いであったり、これはイヤ、あれはイヤとなり、結局漫画喫茶に行くはめになった。という事はカップルでは起こらないだろうか？  
初めてのデートはどこに行ったらいいかわからない。ということはないだろうか？

本当は動物園より、君と二人っきりでいたいということはないだろうか？

ほんのはこ

1Fには本棚があり、そこから自由に本を借りることができる。ここにおいてある本はすべて寄付によるものである。

誰もが自由に本を借りられ、自由に本を次の人のために置いていける。

外に出るにしても、大きなエネルギーを使わずゆったりと過ごせる空間が納屋橋リバーサイドロマンズである。

空間内は、恋が生まれ、恋が育まれ、恋が膨らませる空間であると同時に、本が読め、音楽が聴け、インターネットが利用でき、話をしたり、待ち合わせをしたりできます。

音楽も本もハードはありますが、ソフトは持参もしくは、寄付という形をとります。

ばそこんのはこ

1Fの受付より、“はこ”内と空間内のみでインターネットを利用することができる。

myばそこんを持参すれば空間内のどこでもインターネットを利用できる。

おんがくのはこ

1Fの受付より、“はこ”全体に音楽を流すことができる。

iPodやMDやCD等、自分の持っているソフトを渡すだけ。自分の思い出の曲や、今気になっている曲をチェックしよう。

3rdLayer  
2ndLayer  
1stLayer  
G.L.

東側立面図 縮尺 1:200

attention

注意



“はこ”単体だけが独立したメディアにならないようにする

様々なメディアを入れる事で、空間使用が多様化するがその分、独立してしまふ恐れがある。“はこ”同士が特徴をにじみだす事で、用途が全体に広がっていく。各々の“はこ”を行き来することはもちろん、その間に緩衝空間を設ける事にした。

buffer zone

緩衝空間

デッキ テーブルセット 小さなはこ

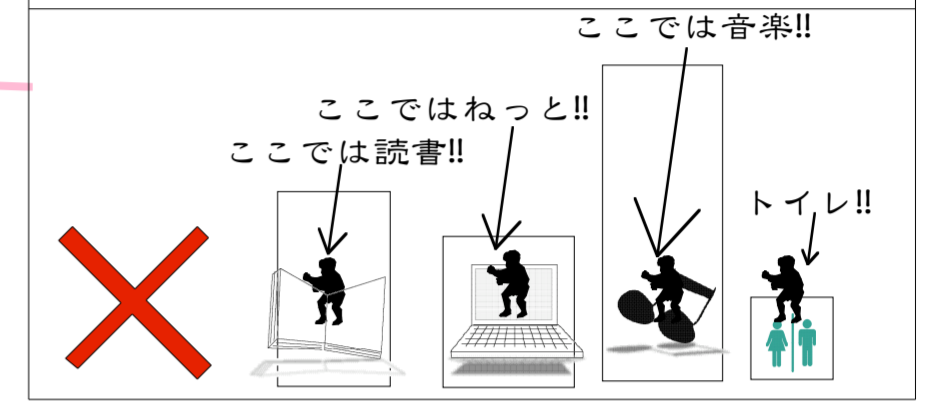
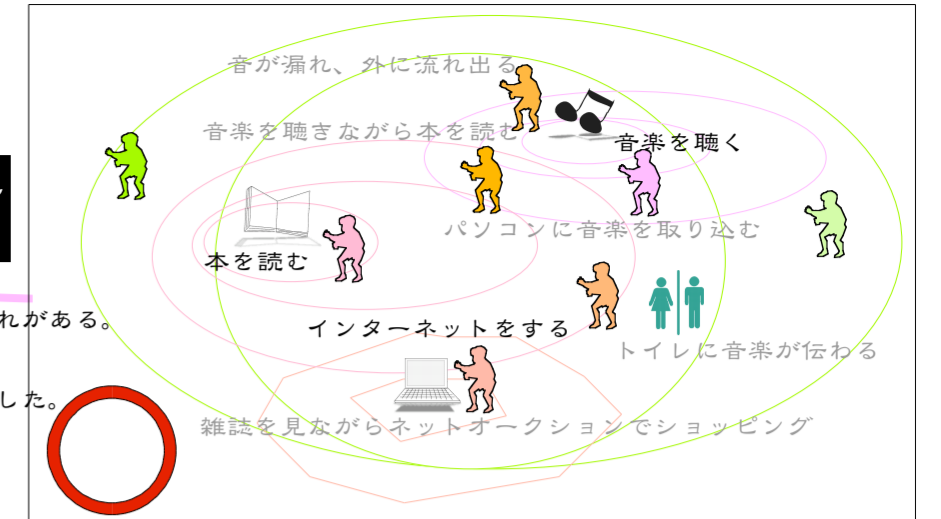
“はこ”がそれぞれが独立しないために緩衝空間をちりばめられている。

大きなメディアを 音楽 パソコン 本 として その“はこ”の間に デッキ テーブルセット 小さなはこを配置した。

緩衝空間はメディアを利用しない人達、例えば世間話しているカップル 彼女のトイレを待っている彼氏や

メディアを両方利用する人たち 例えば音楽を聴きながらパソコンをする人 彼女は本を読み、彼氏はネットをするが集まり

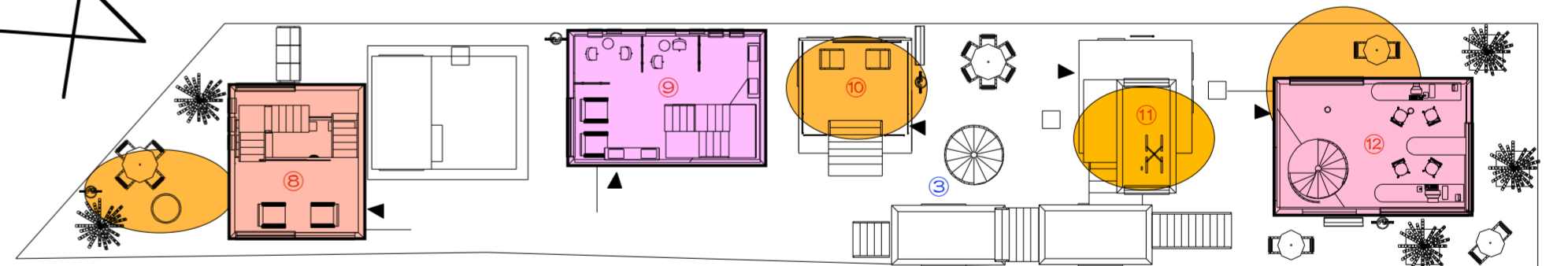
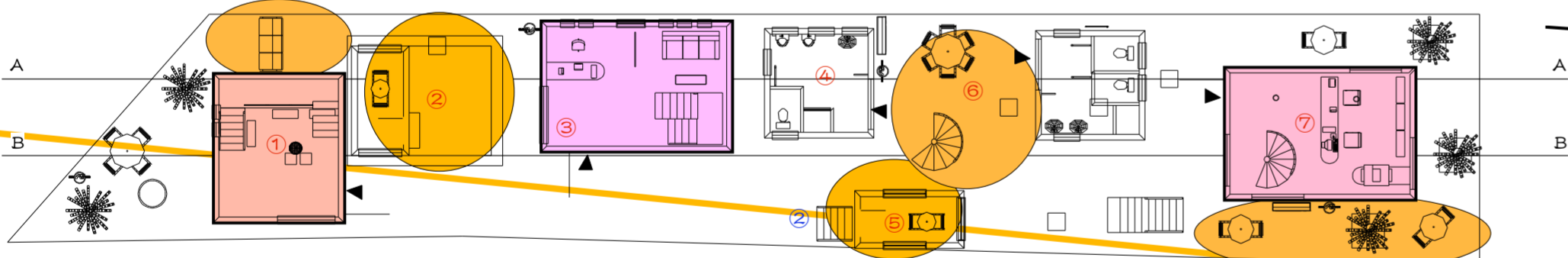
それぞれがやりたい事ができるようなスペースである  
ここでさらに新たな人との交流を生まれる事も期待される。



デッキ “はこ”と“はこ”を空中で結ぶ。デッキは全体をつなぎ一体化する役割を果たす。

テーブルセット 何気なく、どこにでもあるテーブルと椅子。気軽に使え、小休憩でも一瞬中いても大丈夫。

小さなはこ 二人だけの時間を逃るものをなくするのがこの“はこ”。小さな個室で大切な一時を過ごしたい方へ。



▲ 平面図 1stLayer, 2ndLayer, 3rdLayer (縮尺 1:200)

▼ 右からA-A断面図, B-B断面図 (縮尺 1:200)

思わず立ち寄った場所

デートの場所

思い出の場所

心地よい場所

